

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング 情報ブック2015』にてご確認ください。

- ・ p. 4～5→学年暦
- ・ p. 26～29→通信教育部カレンダー
- ・ p. 42～44→社会福祉士 演習・実習科目関連締切等
- ・ p. 45～48→精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等

2 / 1 ～ 3 / 25 の追加・変更点

- 3 / 5 ・ 6 仙台「心理学研究法Ⅱ」スクーリングの会場
会場が国見キャンパスとなります（本冊子 p. 45参照）。
- 3 / 12 ・ 13 東京「福祉法学」スクーリングの講義形態
初日 3 / 12 がビデオスクーリングとなります（本冊子 p. 45参照）。

精神保健福祉士を目指す皆さまへ

—今求められているもの—

教員 MESSAGE

准教授 志村 祐子

精神保健福祉の現状

平成16年の精神保健福祉の改革ビジョンにより①国民の理解の進化を図るための「心のバリアフリー宣言」②早期退院の実現に向けた体制整備として精神医療の改革 ③地域で安心して暮らせるための生活支援を強化する体制整備として、相談支援、就労支援等の施設機能の強化やサービスの充実があげられました。10年間で受け入れ条件が整えば退院可能な者約7万人についての解消を図るという「入院医療中心から地域生活中心へ」の精神保健福祉施策がとられてきました。しかし、平成24年の「精神科医療の機能分化と質の向上等に関する検討委員会」において、新規入院者のうち、約6割は3ヶ月未満で、約9割は1年未満で退院している現状の一方で、1年以上の長期在院者が約20万人（入院者全体の3分の2）と報告されており、アウトリーチ（多職種チームによる訪問支援）、精神科救急医療体制整備等、今後さらなる対策が検討されているところです。

さらに、平成25年6月精神保健福祉法の一部が改正されました。主な内容は、医療保護入院の見直しとして①医療保護入院における保護者要件が家族等のうちいずれかの同意要件に、②精神科病院管理者に対する医療保護入院者の退院後の生活環境に関する相談及び指導を行う者（精神保健福祉士等）；（退院後生活環境相談員）の設置、地域援助事業者との連携、退院促進のための体制整備が義務づけられました。平成26年4月1日以降の入院した在院期間1年未満の医療保護入院者については、医療保護入院者退院支援委員会の開催も義務づけられています。また、精神医療審査会の委員として「精神障害者の保健または福祉に関して学識経験を有する者」

の規定が加えられました。退院後生活環境相談員は、担当する入院者の退院計画について、精神医療審査会における定期病状報告書の中に記載する必要があります。多くの病院において退院後生活環境相談員は精神保健福祉士が選任されています。退院支援のための中心的役割を担い、院外の多職種と連携調整を図ること、医療保護入院者退院支援委員会開催においても中心的役割を果たし、記録等の作成にも積極的に関わることが求められています。地域においても特定相談支援事業等の地域援助事業者は退院後生活環境相談員との連携が求められています。

精神保健福祉士に必要なもの

前述以外にも現場の状況は毎年のように変化しています。そうした変化をいかに敏感に、適切にキャッチし、柔軟に対応していく力も大切になります。さらに多職種との連携がこれまで以上に求められている中で、いかにつながりを築いていくかのネットワーク力、コミュニケーション力、そして情報の共有と保護。チームをまとめていく力も必要になります。退院計画のみならず事業利用についてもサービス利用計画、個別支援計画等は必須です。そのためマネジメント力が問われてきます。通信の学生の皆さんは、ご自分の学習計画を作成し、日々勉強し、レポート作成をされているので、その点では十分に力を養生されていると思いますが・・・。

現場で働いている卒業生に対し、スーパービジョンを定期的に行っている中でよく出てくることとして「アセスメントの難しさ」があります。アセスメント力が計画の善し悪しに影響します。多くの情報の中から何をどのように考え捉えていくのか。絶対必要なもの、できればあった方が良いもの、今すぐには必要としないもの等の取捨選択の力。これも通信で学ぶ皆さんは、ご自分で教科書や参考書から必要なものを取捨選択してレポート作成をされているので、日々の苦しい作業の中で蓄積されていると思い

ます。但し、それはご自身のためにご自身の判断でできることです。支援現場は、あくまでも「利用者にとって」という視点で考えていくことが求められています。利用者のデマンドだけに注目するのではなく、真のニーズをいかにキャッチしていくことができるか。そのための学びの土台が、大学での学びだと思います。現場は応用編ばかりです。土台をしっかり築いておかないと柔軟に対応することはできません。科目数も多くレポート作成は大変かと思いますが、将来への蓄えと考えて楽しく勉強に励んでいただければと思います。実習に出た時に、これまで頑張ってきたことと目の前で展開されていることが結びつけられれば、生きた学びとなることでしょう。ご自分を大切にされながらしっかりと学びを積み上げていってください。

皆さまのさらなる発展を祈念しております。

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●社会保障論 阿部裕二先生 2015.12/18~20 東京

- ・年金や医療保険など私たちにとっては身近なことであるのに知識不足であったことを痛感しました。自分の生活と仕事において今回学んだことを活かしていきたいと思います。
- ・社会保障の理解にとどまらず、社会が抱える問題を分かりやすく講義しようという先生の熱意が感じられる内容でした。自宅ですっかりと復習しレポート課題に取り組みたいと思います。
- ・先生の話は、事例も多く取り入れてとてもわかりやすいものでした。話が脱線しているかのように見えて、しっかりと本題とつながっているなど、先生の話し方の技術や展開のしかたも素晴らしかったと思います。

●就労支援サービス論 三浦 剛先生 2015.12/12・13 仙台

- ・生活困窮者や障害をもつ方を就労させて終わることなく、その方に合わせて働きやすい環境を提供することを社会全体で考えていく必要があると思いました。
- ・その人のやりたいことや興味を持てること、そして、才能を活かした就労支援をしていかななくてはならないと感じました。現在ある制度に合わせていくだけではなく、SWにとって社会資源の開発や改良も大きな役割だと改めて考えることができました。
- ・障害者に対しての接し方、捉え方など、以前ほかの教科で学んだはずだが、再び考えさせられた。

●介護概論 後藤美恵子先生 2015.12/12・13 仙台

- ・認知症について深い内容の講義を聴くことができました。地域に住む認知症高齢者とどう向き合うか、またどのようにサポートするかの視点を持つことが大切であることを学びました。
- ・今回のスクーリングを通じ、改めて人間としての尊厳を守っていくことの難しさを感じた。介護の対象者に限らず、相手の価値観やこだわり、生きてきた人生を尊厳することは人として本当に大切なことであると思った。
- ・介護職として勤務しています。介護職がどうあるべきかという原点を学べ、意欲を持つことができました。また、高齢者にとって住みよい社会であるにはどうしたら良いのかを考えるきっかけにもなりました。